

# 化学教育 徒然草

## オンライン授業が 教えてくれたこと

YOTSUYA Koichi

肆矢 浩一

國學院高等学校 非常勤講師 / 上智大学理工学部 非常勤講師  
化学だいきクラブ小委員会 委員 / 日本化学会フェロー



巻頭言

高等学校を2019年3月に定年退職し、現在は非常勤講師として勤務している。また、10年前から大学の理科教育法を担当することになり、教員志望の大学生に対して授業の組み立て方や実験の指導方法などについて講義する機会をもっている。

教員になってからの20年間は、実験を重視した授業を展開することに心がけ、実験材料にはなるべく身近な物質を使うことにした。実験に都市ガスやうがい薬などを取り入れることにより、化学が生活の中でどのように役立っているかを少しでも実感させることを意図したものである。しかし、後半の20年を振り返ると、受験対応で演習が多くなり、やや実験に割く時間が少なくなった感がある。

2020年の新型コロナウイルスの影響で、高校は4月からの2カ月間休校になった。6月には対面授業が再開し、ほぼ平常に戻った。しかし、大学はオンライン授業に移行し、いまだに多くが継続している。45年間に渡って対面授業しか経験のない私にとって、オンライン授業に対してどのように向かい合うべきかが悩みの種となった。そこで、オンライン授業を行うに当たり、自分が今まで行ってきた授業の在り方を根本から見直すことにした。とくにパソコン画面を通してのコミュニケーションがどうなるかが一番不安であった。この試練の中でひとつ考え付いたことは、自分で撮影した実験動画を授業に取り入れ、その映像を見せた上で学生に考察させるものである。さらに発表させることにより、アクティブラーニング的な手ごたえが少しはあったと実感している。学生間でのディスカッションができればなお良かったと思われる。どちらかという学生の方が慣れていることもあり、思ったほどの混乱はなかったが、まだまだ改善の余地がある。今後も新型コロナウイルスの影響が続くことを考えると、オンライン授業に携わった先生方にいろいろ創意工夫された実践事例を紹介していただくことを望みたい。

どんなに素晴らしい映像でも、実物を使った体験にはかなわない。コロナ禍が終息した折には、「化学と教育」誌などに掲載されている興味深い実験を、私を含め多くの先生方に実践していただくことを期待したい。

[連絡先]

150-0001 東京都渋谷区神宮前2-2-3 (勤務先)